



証券コード 3160

# 2022年5月期 第2四半期 決算説明資料

(2021年6月1日～2021年11月30日)

2021年12月23日

1. 2022年5月期 第2四半期 決算概要 … P 3

2. 2022年5月期 通期業績見通し … P16

3. 補足資料 … P20

# 1. 2022年5月期 第2四半期 決算概要

# 連結業績概要

(単位：百万円)	21/5期		22/5期		前年同期比	
	2Q実績	構成比	2Q実績	構成比	増減額	増減率
売上高	27,783	100.0%	26,184	100.0%	△ 1,598	△5.8%
売上総利益	5,519	19.9%	5,094	19.5%	△ 424	△7.7%
販売費及び一般管理費	5,470	19.7%	5,299	20.2%	△ 170	△3.1%
営業利益	48	0.2%	△ 205	-	△ 253	-
経常利益	141	0.5%	△ 134	-	△ 275	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 443	-	△ 218	-	+224	-

■ 新型コロナウイルス感染症の影響から、売上高は5.8%減、営業利益・経常利益は減益

## 外部環境

※ 2021年6月1日から11月30日までの状況

- 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が各地で発出
- 宣言期間中は、飲食店等に対する休業要請や営業時間短縮要請、酒類提供禁止要請などが適用
- 9月30日に全面解除、10月25日には東京都内で認証店の営業や酒類提供の時間制限が解除
- 10月以降、徐々に外食産業を取り巻く環境が回復

## 業績ポイント

- コロナ禍の影響が想定以上に長期化、外食産業の環境悪化に伴い、売上高は5.8%減
- 外商事業の売上高は7.6%減、アミカ事業は7.7%減
- 水産品事業は輸出販売が寄与し売上高は46.4%増と大幅伸長、セグメント利益も大きく改善
- 営業利益は、減収に伴い売上総利益が減少したことから減益

# 連結損益計算書

(単位：百万円)	21/5期	22/5期	前年同期比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率
売上高	27,783	26,184	△ 1,598	△ 5.8%
売上総利益	5,519	5,094	△ 424	△ 7.7%
販売費及び一般管理費	5,470	5,299	△ 170	△ 3.1%
営業利益	48	△ 205	△ 253	—
営業外収益	143	122	△ 21	△ 14.8%
営業外費用	50	51	+0	+1.3%
経常利益	141	△ 134	△ 275	—
特別利益	—	—	—	—
特別損失	431	128	△ 302	△ 70.2%
税金等調整前四半期純利益	△ 289	△ 262	+26	—
法人税等	153	△ 43	△ 197	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 443	△ 218	+224	—

## 売上高

- 外商事業は外食産業の環境悪化に伴い売上高は7.6%減（△1,268百万円）
- アミカ事業は外食事業者向けの販売不振等により売上高は7.7%減（△793百万円）
- 水産品事業は好調な輸出販売が寄与し売上高は46.4%増（+441百万円）

## 売上総利益

- 外商事業・アミカ事業の減収に伴い、売上総利益が減少

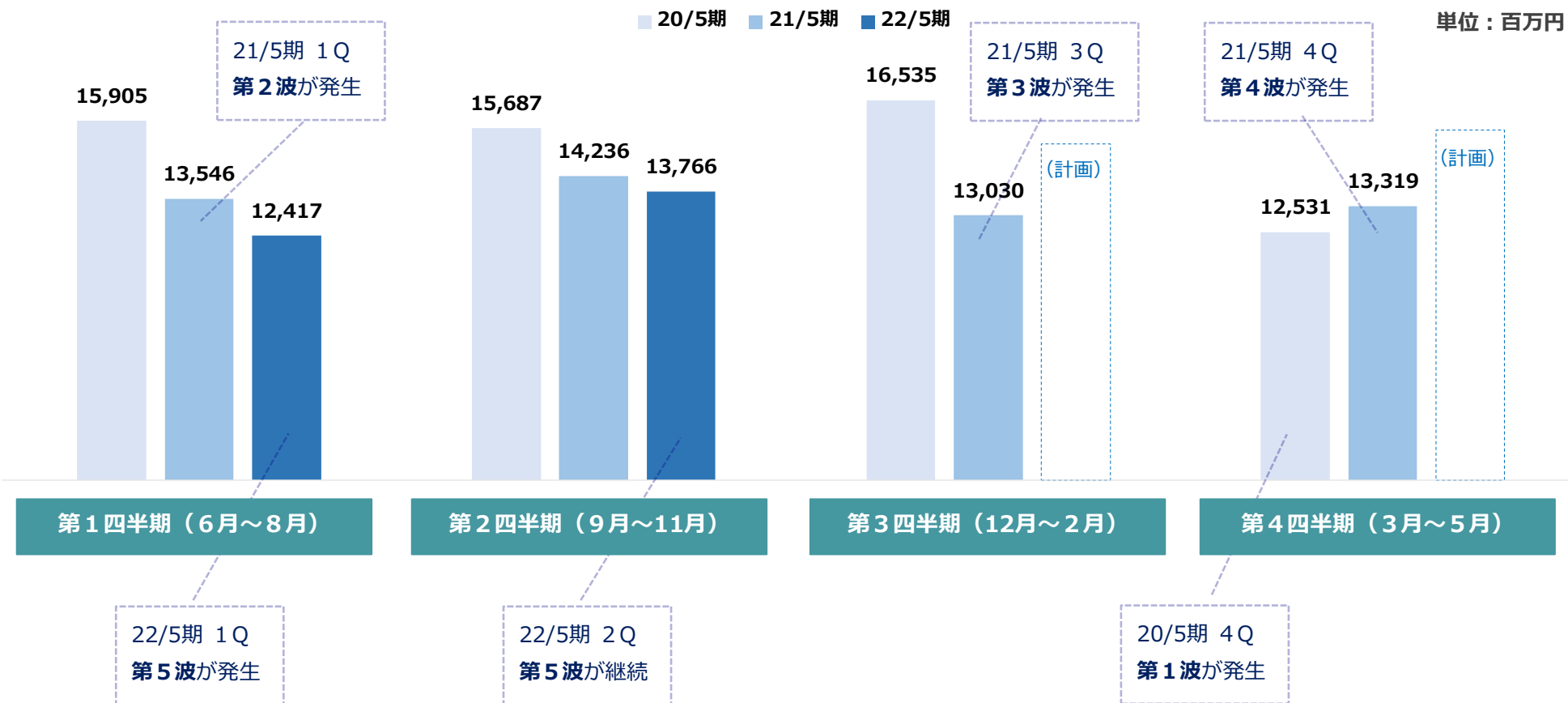
## 販売費及び一般管理費

- 人員配置の見直し等による人件費の抑制
- 減収に伴う減少に加え、配送や庫内作業の見直しなど、個別取引ごとに物流効率化に取り組み、運搬費が減少

## 特別損失

- 投資有価証券評価損等の計上
- 前年同期は投資有価証券評価損（431百万円）を計上

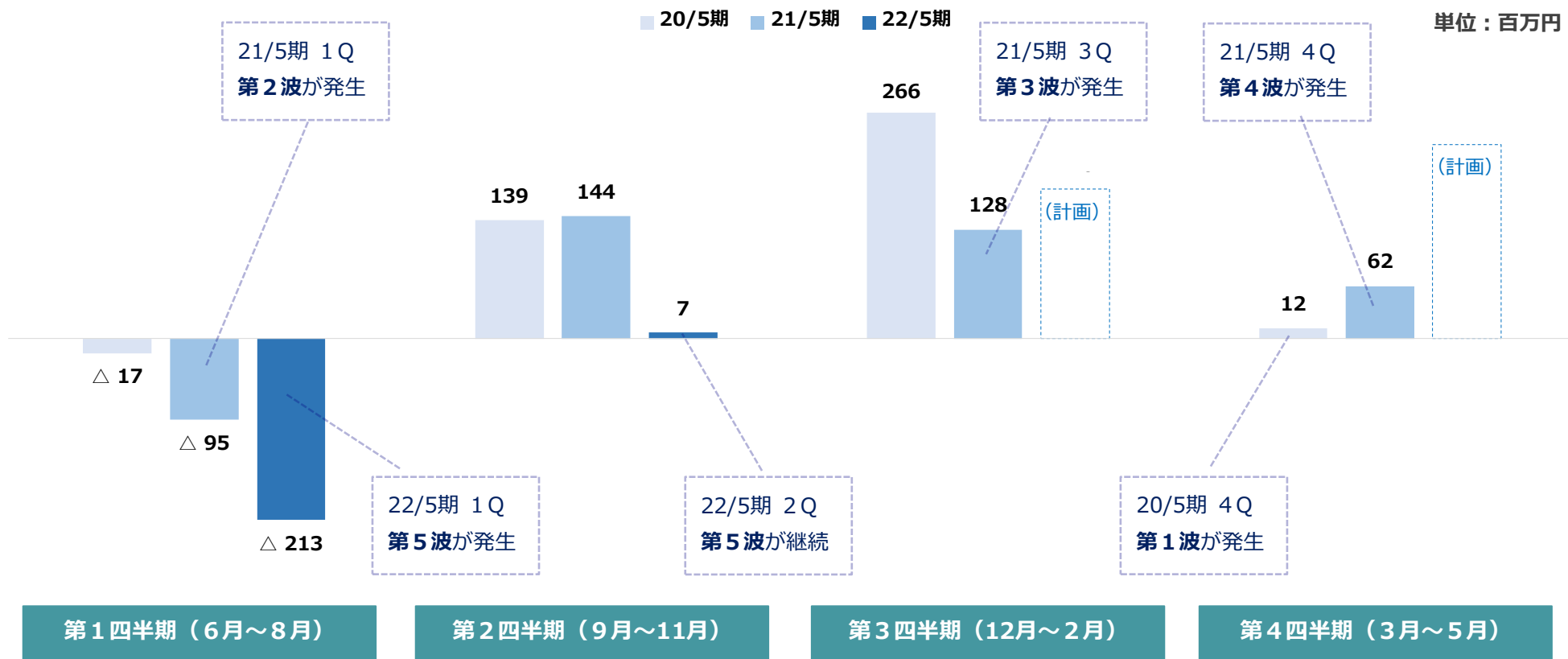
# 売上高推移（四半期・期間別・過年度比較）



■ 22/5期 2Q累計期間は10月まで第5波の影響が継続し、売上高は前年同期を下回る



# 営業利益推移（四半期・期間別・過年度比較）



■ 第5波の影響から減収となったことに伴い、22/5期 2 Q 累計期間は減益

# セグメント別の概要

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	21/5期	22/5期	前年同期比		21/5期	22/5期	前年同期比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率
外商事業	16,653	15,385	△ 1,268	△7.6%	△ 292	△ 320	△ 27	-
アミカ事業	10,240	9,447	△ 793	△7.7%	805	512	△ 292	△36.4%
水産品事業	950	1,392	+441	+46.4%	6	80	+73	+1159.7%
その他 ※	7	8	+0	+2.0%	2	3	+0	+4.5%
調整額 ※	△ 70	△ 49	+21	-	△ 473	△ 480	△ 7	-
計	27,783	26,184	△ 1,598	△5.8%	48	△ 205	△ 253	-

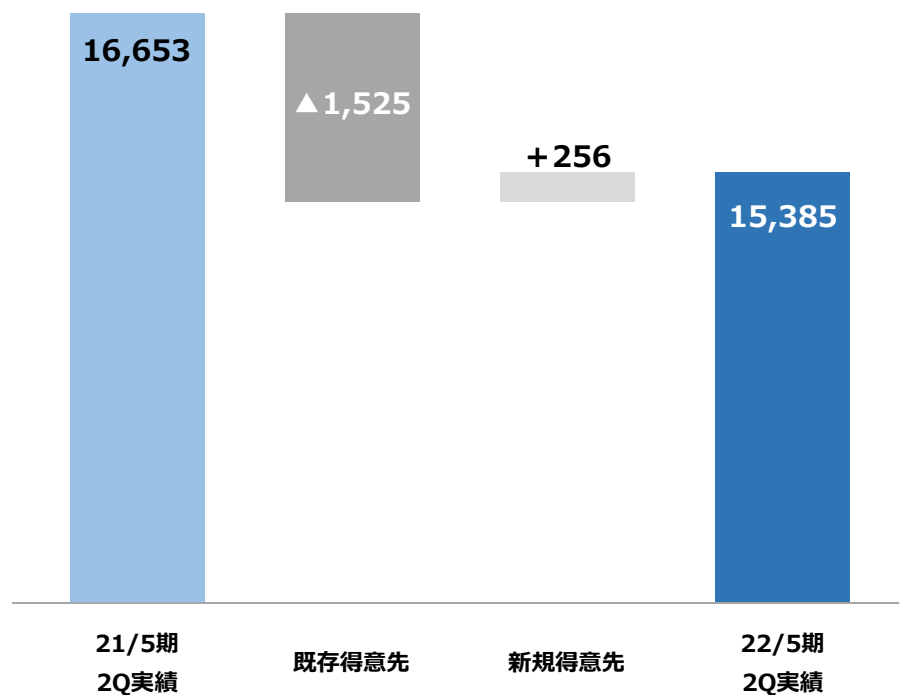
※ 売上高にはセグメント間の内部売上高を含めています。

※ 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を含んでいます。営業利益の「調整額」は、本社経費等です。

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	21/5期	22/5期	前年同期比		21/5期	22/5期	前年同期比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率
外商事業	16,653	15,385	△ 1,268	△ 7.6%	△ 292	△ 320	△ 27	-

### 売上高の増減内訳

単位：百万円



### 売上高の増減要因

- 居酒屋、ホテル等の外食業態得意先における売上不振が響き、既存得意先売上は減少
- 新規得意先による売上は256百万円獲得
- コロナ影響の少ない給食・中食・病院等の業態に対する販売に注力

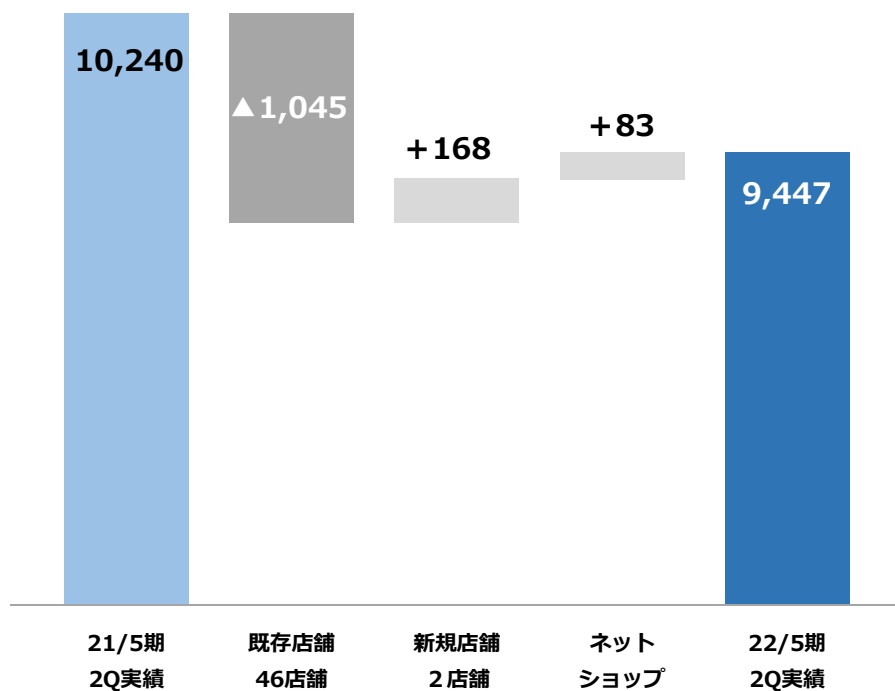
### 営業利益の増減要因

- 物流費の抑制など収益改善を進め一定の効果はあらわれているものの、減収が響き減益

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	21/5期	22/5期	前年同期比		21/5期	22/5期	前年同期比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率
アメリカ事業	10,240	9,447	△ 793	△7.7%	805	512	△ 292	△36.4%

### 売上高の増減内訳

単位：百万円



### 売上高の増減要因

- 外食事業者向けの販売苦戦に加え、巣ごもり需要が落ち着いてきたことから一般消費者の来客数も減少し、既存店売上が減少
- 新規出店は、2021年6月に静岡県内6店舗目となるアメリカ静岡清水店を開業
- ネットショップはアイテム拡充などの取組み効果から前年同期比16.1%増

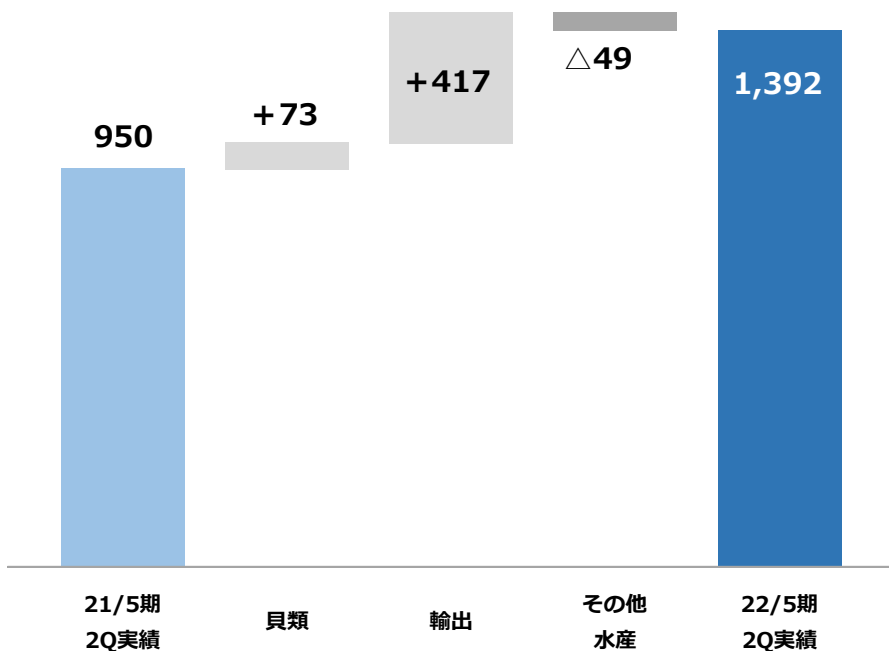
### 営業利益の増減要因

- 売上減少に伴う売上総利益の減少が響き減益

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	21/5期	22/5期	前年同期比		21/5期	22/5期	前年同期比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率
水産品事業	950	1,392	+441	+46.4%	6	80	+73	+1159.7%

### 売上高の増減内訳

単位：百万円



### 売上高の増減要因

- 食品メーカー、量販店、給食向けなど、外食業態以外の販売に取り組み、貝類の売上が増加
- 国産帆立貝等の輸出販売が増収に大きく貢献
- 海外販売先における国産帆立貝等の評価は高く、供給面も強化し輸出販売の拡充を図る
- タコ等の水産品は原料不足により売上減少

### 営業利益の増減要因

- 輸出販売により大きく売上を伸ばすとともに販管費を抑制し、営業利益は大幅改善

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)	21/5期 5月末	22/5期2Q 11月末	増減額
流動資産	9,123	10,192	+1,068
固定資産	7,062	6,982	△ 79
総資産	16,185	17,175	+989
流動負債	8,262	9,881	+1,619
固定負債	3,574	3,199	△ 374
負債合計	11,836	13,081	+1,244
純資産	4,348	4,093	△ 254
自己資本比率	26.9%	23.8%	△ 3.0%

## 主な増減要因

### ■ 流動資産

受取手形及び売掛金の増加	+967
商品の増加	+262

### ■ 固定資産

建物及び構築物の減少	△120
------------	------

### ■ 流動負債

1年内返済予定長期借入金の減少	△100
支払手形及び買掛金の増加	+1,685

### ■ 固定負債

長期借入金の減少	△350
----------	------

(単位：百万円)	22/5期2Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	755
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 81
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 586
現金及び現金同等物に係る換算差額	0
現金及び現金同等物の増減額	86
現金及び現金同等物の期首残高	288
現金及び現金同等物の四半期末残高	374

## 主な増減要因

### ■ 営業キャッシュ・フロー

売上債権の増加	△967
仕入債務の増加	+1,685

### ■ 投資キャッシュ・フロー

投資有価証券の償還による収入	+100
有形固定資産の取得による支出	△100
敷金保証金の差入による支出	△87

### ■ 財務キャッシュ・フロー

長期借入金の返済による支出	△450
---------------	------

## 2. 2022年5月期 通期業績見通し

※ 2021年12月23日に、2022年5月期通期業績予想を修正しています。



# 連結業績予想（通期）

(単位：百万円)	21/5期		22/5期		前期比	
	実績	構成比	修正計画	構成比	増減額	増減率
売上高	54,133	100.0%	57,000	100.0%	+2,866	+5.3%
営業利益	239	0.4%	200	0.4%	△ 39	△ 16.4%
経常利益	395	0.7%	290	0.5%	△ 105	△ 26.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 441	-	80	0.1%	+521	-

- 下期は、新型コロナウイルス感染症による外食産業への影響が緩和されることを想定
- 2021年10月以降、外食産業を取り巻く環境は回復傾向にあり、今後も期末にかけてこのような状況が継続することを前提条件として通期業績予想を算出

## 外商事業

- 既存得意先との取引深耕
- テイクアウト、デリバリーなどニーズ変化に応じた提案営業強化
- 病院・老健施設・中食など多様な得意先に対する新規開拓の強化
- 物流費をはじめとする経費抑制

## アミカ事業

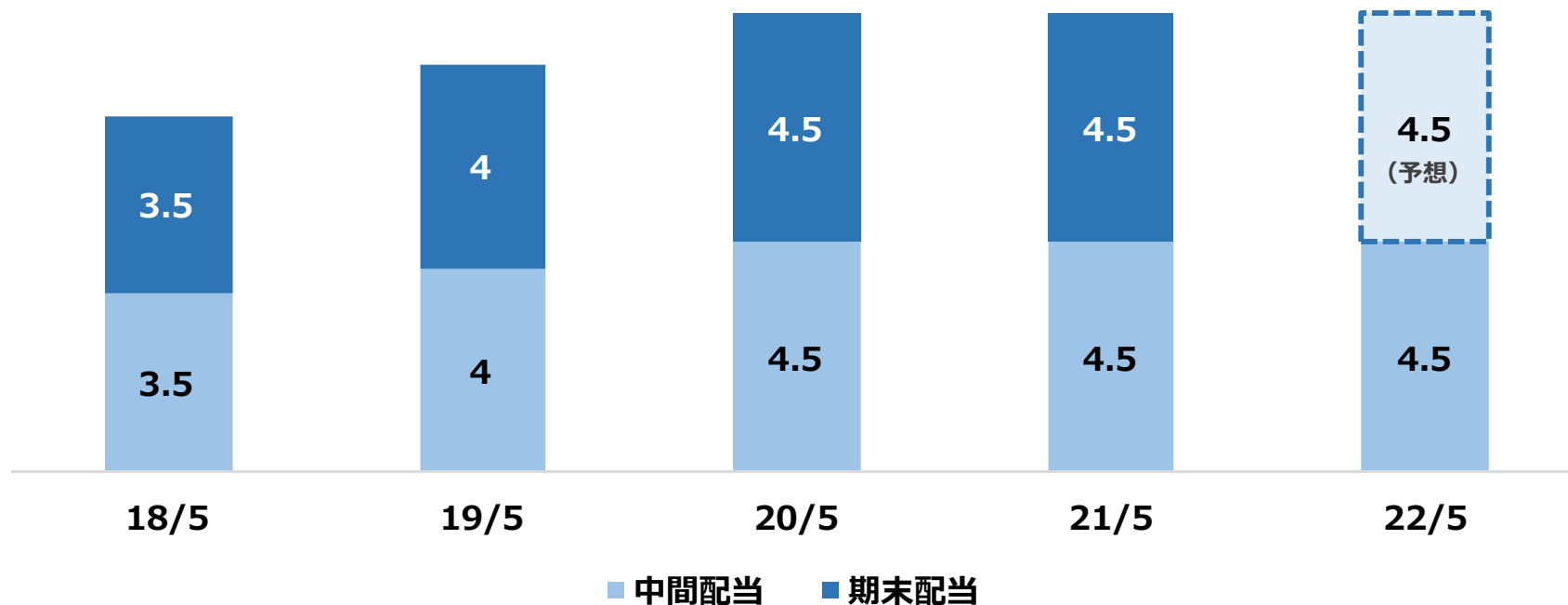
- 継続的な新規出店（来期以降の新規出店に向けた取り組み）
- 家庭内消費に適したアイテム拡充など一般消費者向けの販売強化
- テイクアウト向け商材などニーズ変化に応じた販売強化
- SNSの活用など販促活動の強化

## 水産品事業

- 既存得意先との取引深耕と輸出販売の強化
- 海外販売先も含めた新規開拓
- 外商事業・アミカ事業との連携による水産品提案の強化
- 在庫管理の徹底によるロス削減

## 配当金の推移

単位：円



- 継続的かつ安定的な配当という基本方針のもと、中間配当は4.5円、期末配当は4.5円を計画

## 3. 補足資料

会社名	株式会社大光（東京証券取引所 市場第一部：3160）
代表者	代表取締役社長 金森 武
本社	岐阜県大垣市浅草二丁目66番地
創業	1948年（昭和23年） 6月
設立	1950年（昭和25年） 12月
事業内容	業務用食品卸売および小売業
事業所・店舗	外商事業：10事業所 アミカ事業：48店舗
子会社	株式会社マリンドリカ
資本金	10億76百万円 ※
発行済株式総数	13,450,800株 ※
株主数	17,951名 ※

※ はすべて2021年11月30日時点の内容です。発行済株式総数のうち、自己株式が 200,012株あります。

## 外商事業

業務用食品等  
卸売事業

外食・給食・惣菜など様々な「食」に関連する企業に業務用食品等を販売

対象顧客：大手外食チェーン、ホテル、レストラン、事業所給食、  
学校給食、弁当、惣菜、病院、老健施設など

## アミカ事業

業務用食品等  
小売事業

業務用食品スーパー「アミカ」、業務用食品専門のネットショップを展開

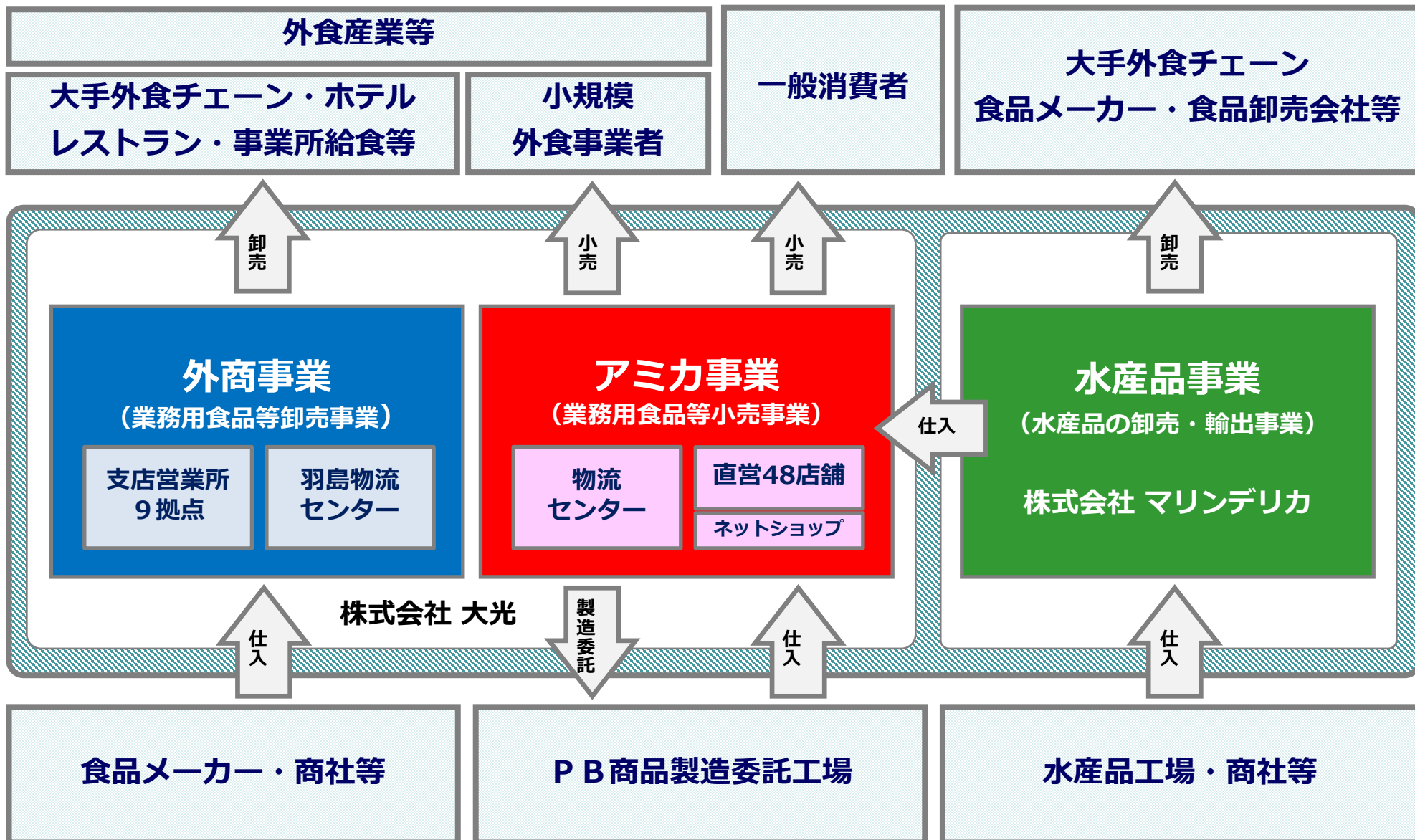
対象顧客：小規模外食事業者、一般消費者

## 水産品事業

水産品の卸売  
輸出事業

貝類を中心とした水産品の国内販売、輸出版売

対象顧客：大手外食チェーン、食品メーカー、食品卸売会社など





証券コード 3160

本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。

掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものであります。

通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、変更する可能性及び本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じるリスクを含んでおります。

当資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

<お問い合わせ先>

株式会社大光 経営企画室

電話：0584-89-7823（直） FAX：0584-89-7333

E-mail：ir@oomitsu.com

[http:// www.oomitsu.com/](http://www.oomitsu.com/)